

平成21年度 学校評価書(自己評価・学校関係者評価)

教育目標	豊かな教養を持ち、産業界の発展に寄与できる実践力のある、人間性豊かな工業技術者の育成をめざす。
経営方針	本校が果たすべき使命を達成するため、専門職として研究と修養に励み、組織的な実践活動を通して教育目標の具現化に努める。
めざす学校像	ものづくりを重視する科学技術系工業高校 ～時代を生き抜くたくましい創造型工業技術者の育成～
重点目標	① 学習指導の改善 ② 工業教育の充実と活性化 ③ 豊かな人間の育成をめざした生徒指導の確立 ④ 活発な生徒会活動の推進 ⑤ 進路指導の充実 ⑥ 健康と安全管理の徹底 ⑦ 環境教育の充実

山形県立山形工業高等学校
学校評価委員会

A:達成(ほぼ当てはまる)
B:概ね達成(やや当てはまる)
C:やや不十分(やや当てはまらない)
D:不十分(ほとんど当てはまらない)

回答率
生徒 92%
保護者 86%
教職員 100%

担当	年度目標		評価		総合評価(平成22年1月アンケート実施)				学校関係者評価 (平成22年2月 実施)		
	重点目標 (実践事項)	評価指標 (数値目標等)	達成状況 (1月末まで)	自己 評価	課題と改善策	評価項目	生徒	保護者	教職員 67名	意見・要望・評価等	
1 教務	① 文武両道の特色ある学校づくり ② 「新学校構想」の推進・実践を通じた各学科・各教科・各分掌のコンセプトの明確化 ③ キャリア教育実践プログラムに基づく学びの確立と、生徒の学びの目標の明確化 ④ 授業時間の遵守や学ぶ姿勢啓蒙を通じた、学びの環境づくり ⑤ 学習の動機付けの工夫と継続的な授業改善と生徒が満足感を覚える「わかる授業」の確立	・研究授業、授業評価学期1回以上実施。 ・生徒の授業満足度80%以上。 ・チャイム着席率99%以上を継続。 ・家庭学習時間調査各学期2回実施。 ・教職員向けIT研修を年2回開催。 <学年> ・朝学習の計画的実施率100%(1年)。 <教科> ・漢検2級15名、準2級40名以上(国語)。 ・英検2級複数名、準2級10名以上(英語)。 ・生徒実験年3回以上(理科)。 ・実験・実習各クラス年5回以上(家庭)。	・授業評価は9月、1月に実施。 ・授業理解度88.7%により、満足度達成と判断。 ・チャイム着席は98.9%とほぼ達成。 ・家庭学習調査は前期中間と前期期末の2回実施。学習時間の改善は見られなかった。 ・IT研修は、システム更新もあり予定以上実施。 <学年> ・朝学習は全クラスで計画通り実施できた。 <教科> ・漢検2級2名、準2級11名合格。 ・英検2級1名、準2級4名合格。 ・生徒実験1回実施(理科)。 ・実験・実習4回実施(家庭)。	B	・昨年度と比較し、授業評価に大きな変化は見られなかった。「生徒の理解度」や「わかる授業」に工夫していると生徒は評価しているが、理解度を向上させるため、一層の工夫が必要である。 ・授業規範や授業への姿勢は評価できるが、自主学習の取り組みが大きな課題である。家庭学習の課題の設定について検討が必要である。 ・学習意欲の向上させ、自ら学ぶ姿勢を確立させるためにも、キャリア教育実践プログラムに基づく学びの確立と生徒の学びの目標の明確化を図ることを更に進めていく。	「新学校構想」の実践を核にして、学校が活性化している。 生徒は充実した学校生活を過ごしている。 授業時間の順守・確保など、生徒の学ぶ環境づくりを進めている。 生徒の学ぶ目標の明確化や、わかる授業を実践している。	B+ 2.75	A- 3.46	B 2.87	・理科は実験から学ぶことが多いし、意欲も生まれるので、生徒実験は目標を達成して欲しい。 ・「新学校構想」の実践について、教職員の評価が低い。 ・親と子の会話が不足しているのではないか、保護者の家庭学習に対する低い評価の改善のため、文武両道の精神に則り、部活動との両立を考慮のうえ、効率的な課題の出し方を検討すべきである。	
2 工業	① 数・理・専門教科の融合教育の実践と、より系統的・効果的な教育内容・方法の構築 ② 接続教育機関や企業との連携を深めた課題研究の充実、全国的な発表会やコンテストに対応できる力量の育成 ③ 3年間を見通し体系化された資格取得への取組の推進、教育課程と連動した学力の形成 ④ 小・中学生・保護者・教員との交流と教育連携を深める取り組みの推進と工業教育の魅力とものづくりの楽しさの啓発 ⑤ 実習機械等の安全管理の徹底 ⑥ 「特色ある高校づくり推進事業」の推進	・数学、理科、工業科相互の研究授業を学期1回実施。 ・安全点検を週1回実施。 ・各科の特色を活かしたものづくりへの取組。 ・各種競技会やコンテストで入賞を目指す。 ・資格取得への積極的挑戦と、合格率100%を目指す。 ・地域貢献の公開講座を各学科1回実施。 ・中高連携事業を3つの学科系ごとに、年1回実施。	・目標まではもう一歩。全体としては概ね実施できたといえる。 ・実習の開始前に毎回安全点検が実施され、目標は達成された。 ・各科とも、積極的にものづくり活動に取り組み、大きな成果をあげることができた。 ・各科とも大きな成果を収め、目標を達成した。 ・合格率は昨年に比若干低下しており、目標に届かなかった。 ・各科とも計画通り実施し、目標を達成することができた。 ・系として実施できたのが1系で、目標には到達できなかった。	B	・数学、理科、工業の関連性や学習の順序性に配慮し、今後とも検討していく。 ・5S運動を推進するとともに、今後とも継続して実施していく。 ・ものづくり活動の推進に伴う財源の確保に努め、今後とも積極的に推進していく。 ・上位大会で更なる活躍をするための指導時間やその体制、財源の確保などを検討していく。 ・カリキュラムの検討と指導時間や指導者の確保など、抜本的な検討を推進していく。 ・効果的な講座の運営のため、参加者や講座の内容、実施形態及び実施時期などを検討する。	工業科と数学・理科の授業が関連づけられ、授業が実践されている。 教育連携先の大学や産技短の講座など、学校外の学習機会を設定している。 社会的に有用性が認められている資格取得に生徒がチャレンジしている。	B+ 3.05	A- 3.42	B 2.93		・進学と資格取得を結び付ける取組みがあってもよいのではないか。 ・学校の設備費アップの取組みが必要ではないか。 ・小中学校連携の取組みは大変評価できる、工業教育のPRにもなり、受検者の増加にもつながると思う。
3 生徒指導	① 学年・分掌・学科間の共通理解に基づく組織的指導体制の確立 ② 形から琴線にふれる指導を展開、基本的な生活習慣の確立と規範意識の育成 ③ 校内外の巡視や環境整備による事故発生への未然防止 ④ 集団活動・行動を通じた互いの個性の認めあいと、協調しあう心や環境を大切にしたい思いやりの心の育成、社会的適応能力の育成 ⑤ 生徒の自主活動の積極的支援や部活動の振興、生徒の個性の伸長と自立心の養成 ⑥ 交通安全に対する指導の徹底を図り、特に自転車通学の指導に努める	・遅刻者延べ人数、前年度比20%減。 ・自転車の二重ロック装着率100%。 ・全国大会出場団体4つ以上、個人7人以上。 ・生徒週番による月1回のクラスへの改善指導の実施。 <学年> ・学校生活の年間充実度、生徒アンケート80%以上(2年)。	・遅刻者延べ人数は、前年度比15%減で目標達成しなかったが、12月の当然の大雪により急増したのが原因である。他の月は大幅に減少しており、ほぼ目標達成である。 ・遅刻常習者は、学年と連携し、個別指導の実施により成果が現れている。 ・校内の耐震工事により、臨時自転車駐輪所の設置と自転車整理が委員会活動の中心になってしまったため、二重ロックの装着率は改善出来なかった。引続き、改善・対策が必要である。 ・全国大会出場団体4つ、個人5人である。 ・個別には行なっているが、クラス全体の改善指導はまだ実施していない。 ・校内外の巡視の徹底により事故は大幅に減少。	B	・遅刻については、天気を見据えた徹底した事前指導を行う。 ・昼休みに交通安全委員による週番を実施し、二重ロックの点検を行う。二重ロックがされていない自転車に警告し、学年と連携して個別指導を実施する。年度中実施予定。 ・部活動においては、今後とも資金面等でバックアップしていく。 ・総合指導、週番活動等により、クラスの状態の把握を行い、クラスごとの改善指導を年度中に実施予定。	琴線に触れる指導をおして、生徒の規範意識を育てている。 集団生活をととして、個性を認め協調しあう心を育てている。 生徒が主役の生徒会行事として、企画・運営されている。 部活動と学業の両立をめざした指導を行っている。 交通安全、特に自転車通学のマナーアップが図られている。	A- 3.26	A- 3.38	B+ 3.15		

担当	年度目標		評価		総合評価(平成22年1月アンケート実施)				学校関係者評価 (平成22年2月実施)			
	重点目標 (実践事項)	評価指標 (数値目標等)	達成状況 (1月末まで)	自己 評価	課題と改善策	評価項目	生徒	保護 者	教 職員	意見・要望・評価等		
4	進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ① 「キャリア教育実践プログラム」並びに「科目選択ガイドブック」・「キャリアガイダンスブック」に基づく体系的・計画的な指導の充実 ② 自分の個性や適性等を見出し、的確な進路選択ができる進路指導 ③ 早期の進路情報の収集と進路データの整理、効果的な相談活動の推進 ④ 進路部・教務部・各学年・教科が連携した学力分析と、進学を目指した効果的な学力向上策の推進 ⑤ 進路内定後の学習意欲を喚起する対策のさらなる検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・就職内定率・進学合格率100%。 ・進路ガイダンス、講話などを各学年3回以上実施。 ・二者面談を各学年とも年2回以上実施。 ・センター試験各科目正答率昨年度以上。 ・教育連携先の入学前教育の100%実施。 ・学校外講座への参加、生徒一人年間1回以上。 ・進学先説明会、企業見学会等への参加率100%(3年)。 		<ul style="list-style-type: none"> ・1月14日現在 合格者/希望者(率) 企業就職65/68(96%)、公務員7/7(100%)、 縁故・自営9/11(82%)、進学134/148(91%) ・進路のガイダンス、講話、面談は各学年とも年3回以上実施した。 ・センター試験の出席者56名。 ・入学前教育については、各進学校からの課題を担任、該当教科主任に連絡して協力体制を作るとともに生徒の取り組み状況を調査し、確実な取り組みを促した。山大工学部と産技短については学習会を開催する。 ・学校外講座への参加はオープンキャンパス、科学技術Ⅰ・Ⅱ、インターンシップ、その他の個人参加を含めると8割の生徒が参加した。 ・3年生の進学先説明会、企業見学会等への参加は100%。 ・1、2年生も進学先説明会、企業見学会等に積極的に参加した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も求人難は続く予想されるため、早めの求人活動をおこなうとともに日頃から各専門学科を中心に関連企業との信頼関係の深化を図る。 ・不況の影響で国立大学や職業能力関連校への希望者が増加傾向にあるため進学者の一層の学力向上を図る。 ・急速に増加してきた入学前課題への取り組みの徹底を図るとともに、支援体制を充実させる。 ・昨年度まで整備したキャリア教育実践プログラムへの職員生徒の理解を深め実践の徹底を図る。さらにプログラムの改善をおこなう。 ・進路指導体制の充実を図る。 ・年間を通した事務補助員の配置を要望する。 	<ul style="list-style-type: none"> 充実したキャリア教育が行われている。 生徒の自分さがしを支援している。 希望する進路へのチャレンジ精神を育てている。 希望する進路別の学力向上策がとられている。 	<ul style="list-style-type: none"> B+ 3.17 B+ 3.15 B 2.91 B 2.83 	<ul style="list-style-type: none"> A 3.51 B+ 3.24 B 2.91 B+ 3.05 	<ul style="list-style-type: none"> B+ 3.22 B+ 3.06 B+ 3.25 B+ 3.10 	<ul style="list-style-type: none"> ・サイエンスカフェ等学校外講座に積極的に参加しており評価できるが、積極的に質問する生徒が増えて欲しい。 ・就職の受皿としても、地元への企業誘致等には多方面と連携しながら協力していかなければならないのではないか。
5	総務	<ul style="list-style-type: none"> ① 社会参加活動や地域貢献活動の積極的な推進により、良好な人間関係や社会性の育成を図る ② 安全管理マニュアルの理解と施設・設備の安全点検に努め、安全な学校づくりを推進する ③ 目的意識を明確に持った環境教育・保全活動への取組 ④ 県環境保全率先実行計画に沿った、やまがたECOマネジメントシステムの実践への全校的取組 ⑤ 地域、保護者と連携した環境保全活動への積極的取組 	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA関係会議(総会等)での出席率70%台。 ・水道光熱費・印刷費の対前年比3%減。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA総会の保護者出席率は66%、目標到達せず。 ・「植木まつり」及び「花笠まつり」後の清掃ボランティア参加は、計296名で前年比6.5%増。 ・1年生は全員が馬見ヶ崎河川敷き清掃(地域奉仕活動)に参加。 ・安全管理マニュアルを職員会議で提示した。 ・BDFの普及啓発活動として、地域のイベント活動等計4回参加。 ・山形県環境保全率先実行計画夏のエコオフィス運動では電気使用量、対前年比1.34%減。 ・水道光熱費・印刷費の対前年比7%減。 ・エコオフィス運動として、エコスタイル、冷房温度28℃、暖房温度19℃設定、エコドライブに取り組んだ。 ・夏季休業中に、保護者、生徒、職員が一緒になって駐輪場および教室腰壁のペンキ塗りの勤労体験学習を実施。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA活動を充実し、出席率向上を図る。 ・社会参加活動や地域貢献活動、保護者と連携した活動では成果が残せた。 ・県環境保全率先実行計画に沿った取り組みを実行したが、主体的意識で実行した職員はまだ少ないと思われる。 ・「親の気持ちを語る会」への保護者の参加は、一年生が増えたが、3年生が少なく、運営方法に工夫が必要。 ・安全管理マニュアルと5S運動が、有機的に結びつく活動になるように取り組む必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会参加活動や地域貢献活動を推進し、社会性を育てている。 生徒は安全・安心な学校生活を送っている。 PTA関連の行事が充実している。 教職員は来客者や保護者に対して、ていねいな対応をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> B- 2.61 B+ 3.11 C+ 2.26 B+ 3.07 	<ul style="list-style-type: none"> A- 3.42 A- 3.41 B+ 3.07 A 3.58 	<ul style="list-style-type: none"> A- 3.46 B+ 3.15 A- 3.27 A 3.52 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア参加は、生徒が計画し、実行する仕組みが必要ではないか。 ・親との会話が少なくなる年齢ではあるが、将来何を持って独り立ちすべきを教え込む役割は、親と学校にあるので、十分に話し合いが必要である。 ・地域密着型のボランティア等の取組みはすばらしいので今後も続けて欲しい。 	
6	保健	<ul style="list-style-type: none"> ① 清掃を通じた環境に対する美化意識と物を大切にす心の育成 ② スクールカウンセラー事業の継続発展、教育相談の充実と精神面の指導・管理 ③ 食育による健康づくりの推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・MS委員会を月1回開催。 ・総合評価A段階全校生徒の20%以上。(新体力テスト) 	<ul style="list-style-type: none"> ・MS委員会及び教育相談を定期開催し、連携を図る事で、迅速な情報収集と個別対応ができた。 ・清掃活動の取り組みは概ね良好であった。 ・体力テストは701人中166人が総合評価A段階、割合は23.7%で目標達成した。 ・全校生対象に骨密度検査を実施し、食事の大切さを数値として示すことで指導することができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育に関する研修を行い、支援体制の構築を図る。 ・今後も清掃活動の充実と、美化意識と物を大切にす心の育成に力を入れる。 ・1学年及び女子全体の体力テスト結果が低いので今後も、機会を逃がさず指導する。 ・日々の食事の大切さをアピールしながら、食育に関する普及活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ゴミの分別回収や、ものを大切にする環境意識を醸成している。 学校生活に関する相談がしやすい環境づくりに努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> B+ 3.23 B- 2.67 	<ul style="list-style-type: none"> B+ 3.03 A- 3.27 	<ul style="list-style-type: none"> A- 3.27 B+ 3.18 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミの分別回収をきちんと実施しているのはすばらしいことだが、資源の生かし方や命の教育へつなげる取組みも必要ではないか。 	
7	図書情報	<ul style="list-style-type: none"> ① ホームページを活用した情報発信の推進 ② 図書館機能の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの更新月1回以上。 ・生徒の図書貸出し、年間一人平均3冊以上。 ・図書館だよりを年5回、図書館報「そら」を年1回発行。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの更新、20回。 ・生徒の図書貸出、一人平均2.11冊。 ・図書館だより、4号発行済み。年度内5回発行予定。 ・図書館報「そら」年度末に発行予定。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ更新に関して手続きなど校内体制の見直しを検討する。 ・生徒の図書貸出率向上のため、啓蒙活動や書籍整備に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の情報発信に努め、教育内容を保護者と共有している。 	<ul style="list-style-type: none"> B+ 3.07 	<ul style="list-style-type: none"> B+ 3.15 	<ul style="list-style-type: none"> B+ 3.16 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民や小中学校が求める内容の充実が求められる。 ・ホームページは更新されており活動の様子もわかるが、写真の説明が不足しているのでは。 	

その他の意見

- ・生徒には将来夢を見せてあげられる教育が必要。社会の変化を感じる力、社会に関心を持つことを新聞を通して学習する機会があっても良いのではないか。
- ・経営品質の観点から、なぜこの目標にしたのか、なぜこの結果になったのか分析して欲しい。その結果仕組みが変わっていくのだと思う。
- ・アンケートの質問項目が多いのではないか 精選してはどうか。